



昭和20年(1945)の三河地震による死没者を祀った和泉町向共同墓地の精霊碑と、震災直後に犠牲者の遺体が埋葬された場所とされているサツキの植え込み(安城市)

歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド

先人たちが伝えようとしたことに、耳を傾けてみんかのぉ



深溝松平家の祈願所・菩提所である本光寺と、昭和20年(1945)の三河地震等によって崩壊した本光寺の土塼(幸田町)



嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震で倒れ、そのままになっていた常夜燈に代わって設置された権現崎灯台(碧南市)

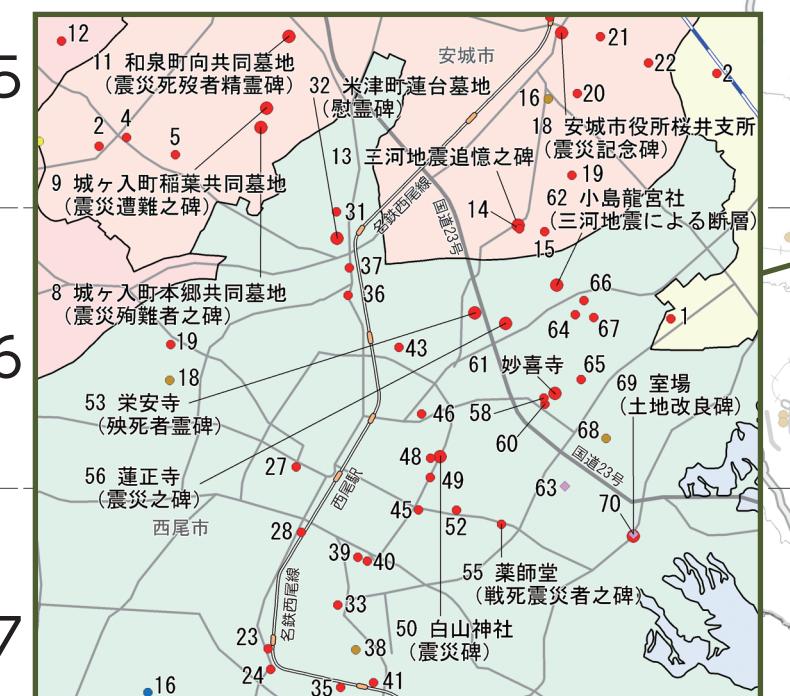


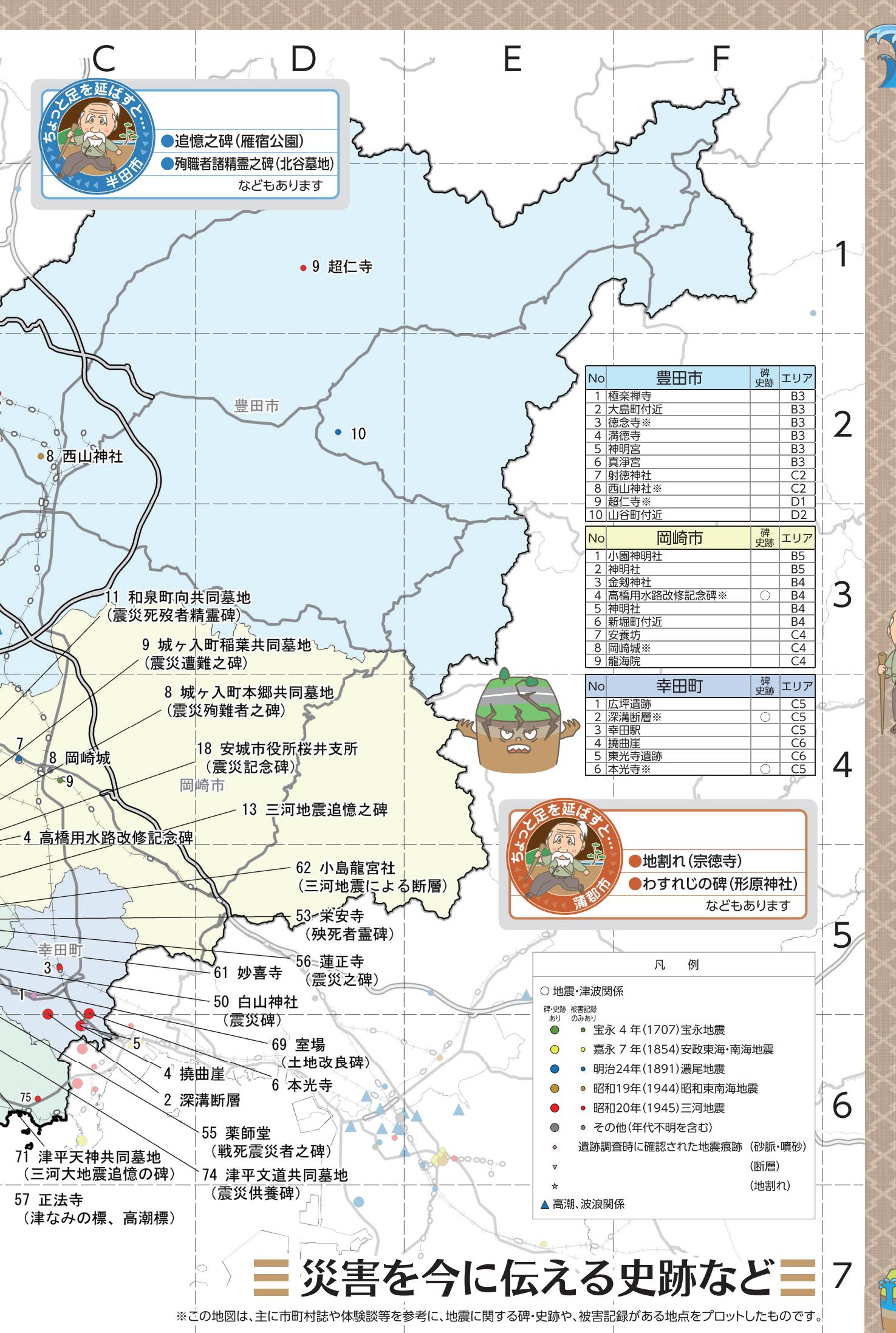
※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など
地域に残る記録を参考にして作成したものです

みよし市	碑 史跡	エリア	No	碧南市	碑 史跡	エリア
神明社*		B2	1	権現崎灯台*	○	A5
知立市	碑 史跡	エリア	2	大浜小学校		A5
萬福寺		B4	3	熊野神社		A5
刈谷市	碑 史跡	エリア	4	中町(旧大浜町塩取場)付近		A5
誓満寺*		A4	5	碧南駅		A5
専称寺*		B4	6	藤秀寺		A5
刈谷駅付近		B4	7	前浜新田*		A5
松雲院*		B3	8	稻荷社		A5
高浜市	碑 史跡	エリア	9	妙法堂		A5
青木町(旧高浜村字県)付近		A4	10	神明社		B5
正林寺		A4	11	応仁寺*		B5
寿覚寺		A4	12	八剣神社		B5
專修坊		B4				

※:解説ページあり ○:地震に関係する碑・史跡
○:地震・津波に関係する碑・史跡
△:高潮・波浪に関係する碑・史跡

西尾市	碑 史跡	エリア	No	西尾市	碑 史跡	エリア
伊勢湾台風復旧之碑	△	A6	41	蓮光寺	B5	
惠琳寺		B5	42	吉田神社	B6	
中畠町南側付近		B5	43	明專寺	B5	
寺津町南馬場付近		B5	44	宝珠院(海嘯記念碑、三界萬靈碑)※	△	B6
巨海町佐円付近		B5	45	丁田道東付近		B5
端用寺		B6	46	熊味觀音寺		B5
一色町赤羽付近		B6	47	光明寺		B6
一色高校(旧中部国民学校赤羽別院)		B6	48	徳次町地蔵付近		B5
普元寺	△	B6	49	徳次町大寺付近		B5
諏訪神社(十三号台風災害記念碑)	△	B6	50	白山神社(震災碑)※	○	B5
崇用寺(水害供養塔)	△	B6	51	春日神社(三河大地震之碑)	○	B6
一色町生田竹生新田付近		B6	52	法嚴尼寺		B5
十三号台風記念碑	△	B6	53	栄安寺(殃死者靈碑)	○	B5
行用町東屋敷付近		B6	54	正向寺		B6
良宣寺		B6	55	薬師堂(戦死震災者之碑)※	○	B5
光明寺		B5	56	蓮正寺(震災之碑)	○	B5
下道目記町山畔付近		B6	57	正法寺(津みなみの標、高潮標)※	△	B6
小間西側付近		B5	58	江原町屋敷付近		B5
上町浜屋敷付近		B5	59	幡頭神社		B6
憶念寺(水害碑)	△	B6	60	福淨寺		B5
不退院		B6	61	妙喜寺		B5
市子町下川田付近		B6	62	小島龍宮社(三河地震による断層)※	○	B5
菱池町大道付近		B5	63	岡島遺跡		B5
菱池町新田付近		B5	64	小島町山内付近		B5
大島八幡社*	○	B6	65	江原神明社		B5
浄泉院(棟札)	○	B6	66	東禪寺		B5
薬師寺		B5	67	安樂寺		B5
矢曾根町寺後付近		B5	68	鍼神明宮(土地改良碑)	○	B5
八幡社		B6	69	室場(土地改良碑)	○	B5
養泉寺		B6	70	室遺跡		B5
米津神社		B5	71	津平天神共同墓地(三河大地震追憶の碑)	○	B6
米津町蓮台墓地(慰靈碑)※	○	B5	72	西幡寺町古浜(旧古浜新田)		B6
淨德寺		B5	73	鳥羽町北迫(鳥羽山)付近		B6
玉照寺		B6	74	津平文道共同墓地(震災供養碑)	○	B6
神明社		B5	75	福泉寺		C6
新渡場町大西付近		B5	76	一色町佐久島付近		B7
米津橋		B5				
神明社 八幡社 天満宮 合殿		B5				
嚴西寺		B5				
今川町御堂東付近		B5				





地震時の状況のいくつか

(昭和東南海地震の体験談より)

形原神社(蒲郡市)

ちょっと足を延ばすと、蒲郡市に形原神社があります。ここには、三河地震の犠牲者の靈を慰め、かつ、後の世の戒めともしたい、という有志の願いが結集して建てられた「わすれじの碑」があります。この「わすれじの碑」では、東日本大震災のあと、地域の災害をもう一度思い起こそう、との思いから、三河地震発生の日に近い成人の日に、慰靈祭が行われるようになりました。

雁宿公園、北谷墓地(半田市)

ちょっと足を延ばすと、半田市に雁宿公園や北谷墓地があります。ここには、昭和東南海地震の犠牲となった方々を追悼する碑がいくつかあります。

地震時の状況のいくつか

(三河地震の体験談より)

先人の声を聞き活かしていくことが大切なのじゃ

「お昼前だった。…その時グラッ、グラッと来た。ハッと思つて東の門を見た時、続きの横屋共々、南北にゆさゆさ揺れています。アッ、と思った。その中に立っているからなりしゃがんだ。右に左に地面があるでシーソーをやっているように…。手を突いてもまた転びそう。…今にも倒れそうなくらい揺れている…」<高浜市>

「私は中学一年生。午後一時頃学校の教室で国語のかきとりをしていました。突然教室ががたがた音を立てて、左右にゆれて居る。…ようやく外に出たが、地めんが大きく廻って居る。運動場がめりめりと音をたてて地割が出来た。池の水が、だばんだんと大きく左右にゆれて居る。こわくて声も出なかつた。」<豊田市>

「それは丁度、私の宿直の夜だった。…夜中、突然ドドドドーンという地鳴り。ついでユサ、ユサと来た。あっ、地震だ。あたりは真暗だと、今度は更に強いのがきた。ダダダダーン、これは大きい。体が横に振り廻される。思わず枕元の机を手さぐりで、そのまま下へ這い込む。まだ揺れている。窓から西南の空にパッ、パッと電光が光る。うす気味悪い夕立雲の峯が見える。次いでドドドドーンという地鳴り。そして、ユサ、ユサ、ユサーッとくる。その度に校舎の硝子が割れんばかりにきしみ、ビビビビビーッと響き遠のく…」<岡崎市>

「家の裏の山が地震の大ゆれと一緒に崩れて来て、土蔵の角の柱から裏のかべが土砂で埋まって、二回目の地震でも又土砂が崩れ落ちるので、どうしようかと考えた…」<豊田市>

防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、先ずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

関連情報

この地域の歴史地震を調べる際には、図書館や、西尾市岩瀬文庫などの公開文庫のほか、幸田町の郷土資料館も役に立ちます。

地震の際の体験談がまとめられています。
「地震体験記録集—関東大震災・東南海地震・三河地震—」(愛知県)
「東南海地震 三河地震 体験談集—大地震に備えて—」(西尾市)
「わすれじの記 一三河地震による形原の被災記録—」
(三河地震記念事業奉賛会)など
(愛知県図書館、西尾市立図書館などでご覧になれます)

愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。
<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

この資料について

この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。

この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

作成協力 [歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会] 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦
(敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

歴史地震記録に関する情報を探しています。

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡・資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

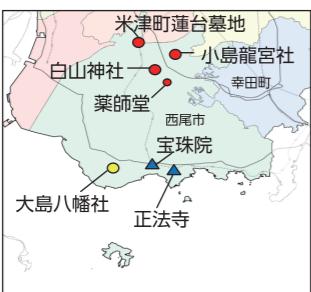
発行: 愛知県防災局防災危機管理課 TEL:052-954-6191 FAX:052-954-6911 E-mail:bosai@pref.aichi.lg.jp

災害を今に伝える史跡など

西尾市

三西尾市の被災状況

西尾市では、過去の地震の際には、建物被害、河川・海岸堤防の地割れ・沈下・陥没、河川周辺・海岸部の液状化などが発生しています。沿岸部は津波でも被害を受けています。西尾市南部(旧幡豆郡(一色町、吉良町、幡豆町))の三河湾沿いは干拓地で地盤が低く、水害を受けやすい地形のため、地震だけではなく高潮災害が多く発生しており、高潮関係の碑・史跡も多く存在しています。



● 白山神社(震災碑)

所在地: 西尾市徳次町宮廻
交 通: 名鉄西尾線「西尾口」より東 約1.1km

境内に土地改良碑、英霊碑と並んで「震災碑」があります。碑文には昭和20年(1945)三河地震により亡くなった人の靈を慰めること、また災害を後世に伝え、防災対策の一助となることを願っていることが記されています。



● 米津町蓮台墓地(慰靈碑)

所在地: 西尾市米津町蓮台
交 通: 名鉄西尾線「米津」より西 約400m

昭和20年(1945)三河地震の慰靈碑が遺族によって建てられています。碑の裏には地震発生当時の状況等が記されており、震動が急激で、しかも深夜であったことから外に逃げられず、家屋の下敷きとなった者が多数出たことが記されています。



● 薬師堂(戦死震災者之碑)

所在地: 西尾市高河原町
交 通: 名鉄西尾線「西尾」より南東 約2.5km

この碑は、戦死者と昭和20年(1945)三河地震による震災死亡者の両方が祀っています。このうち裏面には震災関係の死者として20人の名前が刻まれています。



災害を今に伝える史跡など

幸田町

三幸田町の被災状況

幸田町では昭和20年(1945)三河地震による被災が有名です。三河地震は昭和19年(1944)東南海地震の約1ヶ月後に発生した直下型地震で、深溝断層西側の狭い範囲内に被害が集中しました。この地震で幸田町内の各地に深溝断層の地割れ、段差等が現れました。ただ断層の両側で被害が大きく異なる、深溝断層の東側と北側では被害が小さく、西側で大きな被害となっています。三河地震は戦争中、しかも真夜中に発生した地震のため、長らく被害の全容が公表されず、また余震も多かつたことから、当時の人々は不安を抱えながら生活していました。



● 本光寺

所在地: 幸田町大字深溝字内山
交 通: JR東海道本線「三ヶ根」より北東 約500m

本光寺は、深溝松平家の祈願所・菩提所として大永3年(1523)に建立され今日に至っています。過去の地震被害の記録が残されているほか、昭和20年(1945)三河地震等により土壠が崩壊しています。



● 深溝断層

所在地: 幸田町大字深溝字小井文字
交 通: JR東海道本線「三ヶ根」より西 約2km

昭和20年(1945)三河地震の際にできた断層で、最大落差は約1.5m、最大左ずれ変位量は約1mです。現地ではこれらの変位量が、2本の杭で示されています。



○地震・津波関係

●宝永4年(1707)宝永地震

●昭和19年(1944)昭和東南海地震

●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震

●昭和20年(1945)三河地震

●明治24年(1891)濃尾地震

●その他(年代不明を含む)

▲高潮・波浪関係

愛知県における主な被害地震と気象災害



時代	愛知県の主な被害地震(赤は地域での影響が大きかったもの)	主なできごとと気象災害等
奈 良	和銅8年【靈龜元年】(715)5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉(穀物や財物を保管する倉庫)の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都 (729)長屋王の変、(740)藤原広嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都 (744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都 →(794)平安京(京都)に遷都
平 安	嘉保3年【永長元年】(1096)11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年【天治元年】(1124)2月、尾張を震源とする地震。海東郡(海部地域)の甚目寺が地震で破壊。	(1083)後三年の役(~1087) (1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い
鎌 倉	—	(1192)源頼朝、征夷大将軍になる (1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室町(南北朝)	—	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
室 町 (戦国)	明応7年(1498)6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年(1498)8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり(今切)、安濃津が陥没し海になったといわれている。 永正7年(1510)8月、尾張、三河に地震。定光寺(瀬戸市)で本堂大破。津波発生(高潮の可能性もある)。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(~1596)、(1597)慶長の役(~1598)、(1600)関ヶ原の戦い
安 土・桃 山	天正13年(1586)11月、天正地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及び。真清田神社(一宮市)の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破損。法性寺(あま市)なども倒壊。津島では大地震による田畠の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城(桑名市)も倒壊。 文禄3年【慶長元年】(1596)閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。	(1582)木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(~1596)、(1597)慶長の役(~1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江 戸	慶長9年(1605)12月、慶長地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。	(1603)徳川家康、征夷大将軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1611)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣 (1650)水害。大雨で木曾・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破堤(大寅の洪水)、(1651)由井正作の乱、 (1657)明暦の大火 (1664)水害。大雨で矢作川の堤防が掌母村で破堤 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畠が水害 (1674)暴風雨。木曾川の洪水で尾張・美濃大水害(小寅の洪水) (1678)暴風雨で洪水で尾張藩領内の田畠・堤防・家屋に被害 (1687)水害。大雨で庄内川が出水 (1701)大雨で庄内川・矢田川・天白川・矢作川ほかで出水し大水害。渥美では新田の堤防が破堤、(1702)暴風雨で佐屋川水系、天白川の堤防が破堤、 (1703)暴風雨で洪水。渥美の新田堤防が決壊 (1706)大雨で豊川がはんらん。庄内川の堤防が破堤、(1707)富士山噴火、 (1708)暴風雨で東三河の河川は出水。三河湾・伊勢湾で高潮 (1716)享保の改革はじまる(~1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生 (1722)暴風雨で尾張・三河は甚甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮 (1731)暴風雨で矢作川堤防が掌母村で破堤、(1732)享保の大飢饉 (1767)大雨で矢田川が破堤し、流路が変化(亥年の洪水) (1782)天明の大飢饉(~1787)、(1795)暴風雨で矢作川が出水(合歡の木切れ)、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨。伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。落雷によって各地に火災発生、 (1825)異国船打払令を発す (1821-1822)大雨で矢作川が出水。掌母村で破堤、(1823)大雨で矢作川が 出水、(1833)天保の大飢饉 (1853)ベリー・浦賀に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破堤(天白切れ)、(1853)大 雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1854)日米和親条約締結、大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1855)暴風雨で尾張・三河で洪水。庄内川・矢田川・新川・天白川・大高川・矢 作川の堤防が決壊しはんらん。河和では古布小谷の川が破堤。海西郡では新 田が破堤。矢作川下流の新田でも破堤。伊勢湾・渥美湾で高潮。沿岸の新田堤 防や海岸堤防が決壊。下田で日米和親条約批准 (1856)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1857)大雨で豊川・庄内川が出水 (1858)日米修好通商条約調印、安政の大獄(~1859)、(1860)桜田門外の変、 (1862)坂下門外の変 (1868)丹羽郡入鹿池堤防の決壊(明治元年の入鹿切れ)、(1882)菅生川(乙 川)の決壊はんらん(三島切れ)、(1890)エルトワールル号事件、 (1891)暴風雨で乙川・巴川の橋が流失・山くずれなど多数。矢田川などで堤 防破損、(1891-1892)尾張で大雪、(1894)日清戦争はじまる
明 治	明治24年(1891)10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張西北部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1923)知多郡・東春日井郡でたまき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失、堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ
大 正	大正12年(1923)9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	(1934)室戸台風、(1941)太平洋戦争はじまる(~1945)
昭 和	昭和19年(1944)12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊・流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 昭和20年(1945)1月、三河地震。震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆(西尾市)・碧海郡(西三河地域 西部)方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 昭和21年(1946)12月、南海地震。震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及ぶ。死傷者、家屋の全半壊・流失・焼失多数。	(1945)原爆投下、ボツダム宣言受諾、枕崎台風、阿久根台風などにより、家屋倒壊、堤防決壊、浸水被害。尾張部で大積雪 (1947)カスリーン台風が渥美半島に上陸して浸水被害、(1950)ジェーン台風、(1954)洞爺丸台風、(1958)狩野川台風、(1959)伊勢湾台風

*年表内の「月」は旧暦で記載。 *気象災害については、「愛知県の主な被害地震」の欄に記載した地震直近のものを記載。